＞＞福岡工業大学附属城東高等学校

ゼロから開拓した海外校とのオンライン国際交流

コロナ禍で海外現地研修プログラムが実施できなくなり、オンライン実施に移行する学校が増えている。福岡工業大学附属城東高等学校（以下、城東高校）では、教員の人脈をいかして交流校を新規開拓。交流校と英語力の差があっても、どちらかが我慢するようにならない仕組みづくりを意識したプログラムを企画・実施した。交流する中で生まれる相手への強い興味や好奇心によって、生徒自身が自覚するほどの積極性を生むのを目の当たりにした―

企画のきっかけ

城東高校はもともとニュージーランドへの研修プログラムがあったが、2020 年はコロナ禍で研修が中止。そのような状況であっても、どうすれば生徒の海外への興味をつなげていけるかを教員間で議論し様々な案を出す中で、オンライン交流会を実施することになった。

ニュージーランドの学校とは各学校に 1 台のデバイスを準備し、代表者が話をするという大人数でのプログラムを実施。生徒の反応はよかったものの、少人数グループで行えばより活発な交流になるのではと考えたという。その経験をもとに、2021 年はより濃密なオンライン交流ができるようにほかの学校を探し始めた。

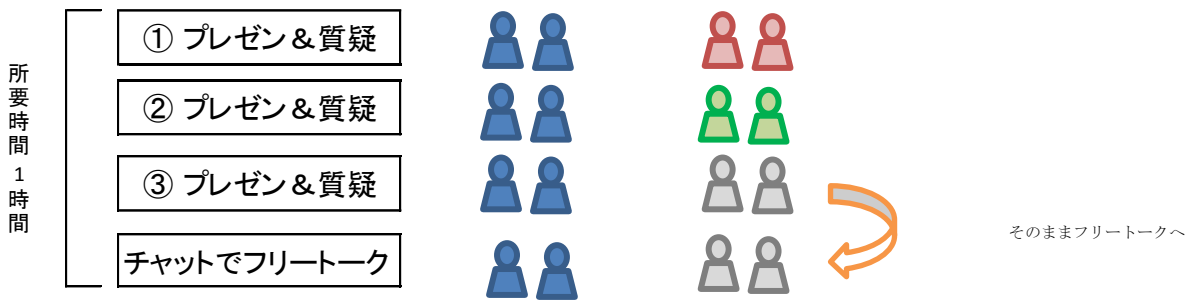
英語教員でグローバル教育推進係の安部先生は、留学時代の友人に連絡をとるなど奔走した。そのうちのひとりの母校にお願いできることになり、交流国としてはめずらしい香港の学校をゼロから開拓することになった。

【オンライン交流会のプログラム内容】

具体的に、香港の高校とは、以下のような交流を行った。

身近なテーマ（学校、文化、住んでる町等）について互いに英語でスピーチをし、発表を聞いた後に質疑応答を行い、最後にフリートークの時間を設ける。

交流校：香港　英語で授業を受講しているバイリンガルの学校（日本文化倶楽部所属の生徒）
参加者：全生徒のうち、希望者
所要時間：1 時間（全 5 日程実施）※放課後 16 時または 17 時頃からスタート
グループ：2 名×2 名で 1 グループ（4 名）　※ペアの組み方は生徒に一任
発表方法：ZOOM ブレイクアウトルームを使用
交流校の相手ペアを変えて、同じテーマについてのスピーチを 3 回ずつ実施。
全 5 日程ともスピーチテーマは変えるが、発表する相手校ペアは毎回同じ。
チャットを活用してフリートーク（5 分間）を実施



事前準備
・与えられたテーマより、細かいスピーチ内容はペアで決めてもらう。自分たちなりに英語で準備をし、必要があれば先生が事前チェックすることで内容をブラッシュアップさせた。
・英語力の差があるので、スピーチ原稿（英語）は事前に相手校に共有

POINT
・毎回決められたテーマの中でスピーチの準備をする。
・同じテーマのスピーチを重ねることで、うまくできていく自分に出会える。
・第 5 回は相手国についてスピーチ。学んだことを発表できる機会を設ける。

意外な発見！それは・・・

同世代の生徒たちと交流することで、「こんなにできる子たちが同世代にいるんだ！」と良い影響を受けて、「自分たちにもできるはずだ」「やってみよう」という前向きな気持ちが芽生え、自ら考えて工夫して取り組む姿がたくさんで見られた。

例えば、教員側はプレゼン資料を作ってスピーチするのは生徒たちには難しいのではないかと考え、原稿を準備することだけを伝えていた。香港側はプレゼン資料を準備していて、そのスピーチを見た生徒たちは、視覚から訴えることはとてもわかりやすいということに気づいた。当時はまだ iPad が配布されていなかったので、自分たちのスマホにアプリをダウンロードして、教員が言う前に、プレゼン資料を作成した姿には大変驚かされた。

教員に言われてやるのとはまた違ったモチベーションが生まれていた。

「英語力は不問！海外とつながりたいなら誰でも OK！」という別企画に 70 名も！

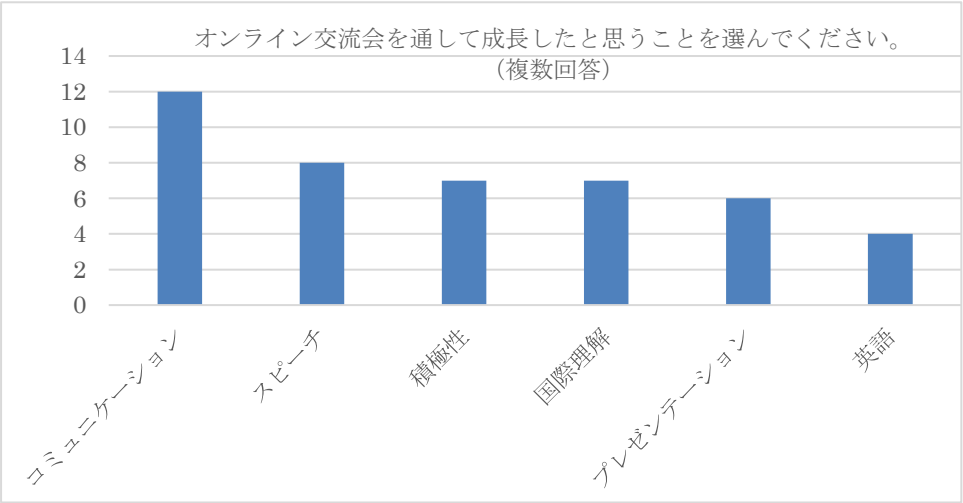
今まで企画したイベントにはグローバルや英語に興味のある人が参加しリピーターになっていたが、次のステップとして、興味がない人や興味があるけど行動を起こせないでいる生徒をどう引っ張るかが命題となっていた。

そこで、「英語力はなくていいから海外の人とつながりたいという気持ちがあれば誰でも OK」とうたったところ、通常の倍程度の 70 名からの応募があった。生徒に応募理由を聞いたところ、「英語力が必要だと思って今までは応募できなかった」「興味があるけど英語が壁で…」という声が多く、英語力が関係ないならやってみたい！という生徒がたくさん出てきた。英語力に関係なく参加して大丈夫という明

確な発信と、英語力にかかわらず交流できるプログラムを作ることが、生徒の背中を押すことになる。

【英語力不問！工夫したプログラム】
・答えがすべて数字になるクイズ：（例）自分が住んでいる町のコンビニはいくつ？
・漢字あてゲーム：日本と香港で使われている漢字だけど意味が違うもの
・文化比較ゲーム：お互いにお菓子・ランチ・お金・教科書など、興味のあるものを写真で見せ合う。
★参加者の英語力はそこまで高くないが、最初から緊張することなく、お互いを知りたいという気持ちがどんどん出てきて、ずっと会話が続いていた。

参加した生徒に聞いた！自分の成長したところは…？



※2021 年 3 月プログラム 実施後のアンケート結果

3 月プログラム実施後の後アンケートの「自分の成長したところは？」について、英語力ではなく「**コミュニケーション能力**」「**積極性**」と挙げている生徒が非常に多かった。自分自身のアプローチ方法を工夫することでコミュニケーションが広がることに気づき、体現していた。教員側からみても非常に成長したと感じた力だったが、生徒自身も自覚できるほどだった。

交流会後の生徒に見えた変化もあった。今までは英語の授業への取り組み方がわからなかった生徒が、交流会に参加してからは英語で文章をつくることへのハードルが下がり、授業へも意欲的に参加するなど受講態度に変化が見られた。

今後は、開発・教育系の企画を盛り込んだプログラムを展開していきたい。

オンライン交流会は本校のグローバル教育推進係が担当しているが、発足当初は英語科の教員が多かった。特に英語教員はグローバルなプログラムはどうしても英語に特化させたくなるが、さまざまな分野の知識を増やし視野を広げるためのプログラムにしていきたいので、現在は社会科や工業科などの教員にも加わってもらい、違った視点で議論を日々行っている。